

平成20年度環境技術実証事業検討会

有機性排水処理技術ワーキンググループ会合(第1回)

議事要旨(案)

1. 日時：平成20年6月2日(月) 14:00～16:00

2. 場所：法曹会館 寿の間

3. 議題

- (1) WGの設置について
- (2) 実証試験要領の見直しについて
- (3) 実証機関の公募・選定について
- (4) その他

4. 出席検討員：藤田正憲(座長)、岡田光正、徐開欽、中井尚、名取眞

5. 配布資料

資料1 平成19年度環境技術実証モデル事業検討会有機性排水処理技術ワーキンググループ会合(第2回)議事概要(案)

資料2 平成20年度環境技術実証事業検討会有機性排水処理技術ワーキンググループ設置要綱(案)

資料3 平成20年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野実証試験要領(第1版)に向けた見直し

資料4 平成20年度環境技術実証事業 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野実証試験要領(案)

資料5 小規模事業場向け有機性排水処理技術分野における実証機関選定の考え方について(案)

資料6-1 実証機関の募集における申請書類について(案)

資料6-2 実績実証機関継続申請書類について(案)

資料7 今後のスケジュール(案)

参考資料 平成20年度環境技術実証事業実施要領

6 . 議事

会議は公開で行われた。

(1) WG の設置について

事務局から資料 2 に基づき各資料を説明した後、WG 設置要綱に沿って進めることが、検討員により了承された。

(2) 実証試験要領の見直しについて

事務局から資料 3、4 に基づき、実証試験要領の見直し(案)について説明。

- ・対象技術の範囲について、厨房、食堂、食品工場のみこだわらず、50m³以下の事業場の有機性排水を対象とした技術で、技術実証委員会で実証可能であるとされた場合にはその技術を対象として検討するのが適当との指摘があった。
- ・回分式(バッチ式)処理技術については、技術毎に技術実証委員会で最良の方法を検討することで対応するのが妥当であるとの指摘があった。
- ・汚泥発生量の実証項目への導入に当たって、その実証方法等は、技術毎に技術実証委員会で最良の方法を検討するのが妥当であるとされた。

(3) 実証機関の公募・選定について

事務局から資料 5、6 - 1、6 - 2 に基づき、実証機関の公募・選定について説明。

- ・過去に実証機関としての実績のある機関が応募する場合、手続きを簡略化することが確認された。

(4) その他

事務局から、資料 7「今後のスケジュール(案)」について説明。

- ・今回の会合については公開であり、議事についてはホームページに公開することが了承された。

(文責：環境省水・大気環境局総務課環境管理技術室 速報のため事後修正の可能性あり)